
都市空間デザインについて

【目次】

- 1 . 都市空間デザインの概念整理.....1
- 2 . 空間の分類.....3
- 3 . デザイン要素の配置方針.....6
- 参考 . 熊本らしさの探求.....9

都市空間デザインとは？

単に目に見える部分をお化粧するのではなく...
 地域風土や風景、生活文化、歴史、地域経済などを総合的に捉え、
 また地区が目指す将来像や周辺とのつながりを考慮して、
 都市環境の向上につながるよう「機能の配置」「人や車の動線」「施設の配置とデザイン」などを総合的におこなうこと。

熊本駅周辺地域の将来ビジョン

まちづくりの理念

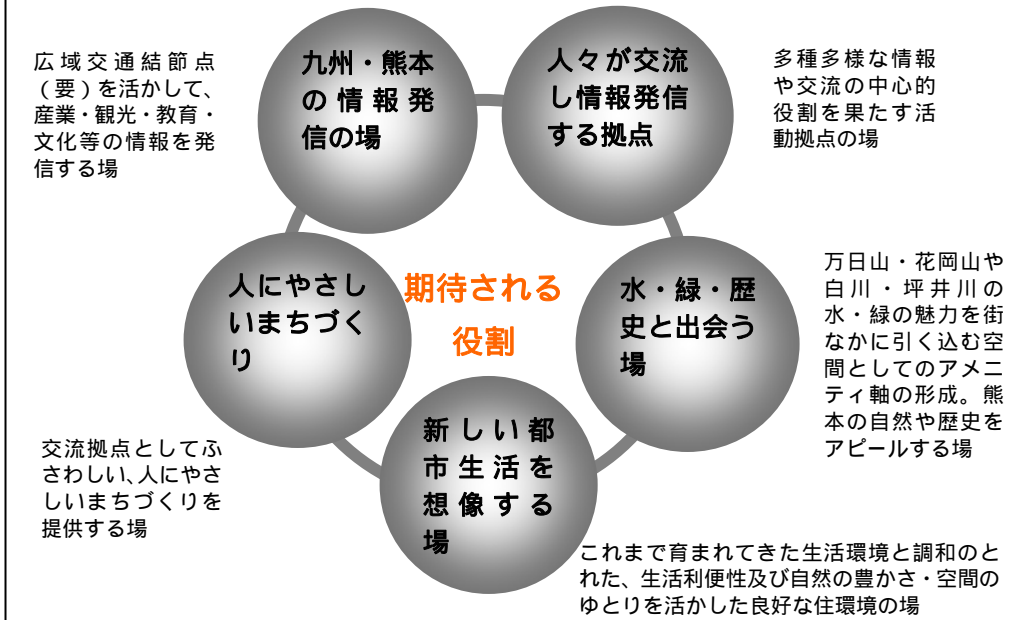
出会いとふれあいのあるまちづくり
 人にやさしく利便性の高いまちづくり
 水と緑の自然や歴史性を活かしたまちづくり

まちづくりのテーマ

人・文化・自然と出会う くまもと・交流舞台
 (パーク・ステーション)

熊本駅周辺地区に集う人々が九州・熊本の魅力と個性を素材とした情報発信と交流を行う「交流舞台」の形成
 人々が情報交換や交流したり休憩できる場所(まちにとっての広場や公園)であり新幹線駅と一体となった交流舞台としての『パーク・ステーション』づくり

期待される役割 と まちづくりの方向性



将来ビジョン実現に向けた「都市空間デザイン」とは？

「パーク・ステーション」の捉え方

・緑や水、広場など公園(パーク)的な都市空間=潤いある都市空間の中で、交流、憩い、語らいなど様々な都市活動が行われる熊本の新たな玄関口・拠点

パーク

「森の都」として緑豊かな空間
 集う人々が憩い、心安らぐ憩いの空間
 多くの人々が集い交流する賑わいの空間
 白川・坪井川の水辺、万日山・花岡山の緑を生かして身近に自然を感じる空間

ステーション

広域玄関口である“駅”のある空間
 多くの人々が集う空間(賑わいの空間)
 様々な交流(人・物・情報・文化)が活発に展開される空間

都市空間デザインのテーマ

心安らぐふれあいが感性に響く 森の都の癒しの空間

多くの人々が集う交流舞台=賑わいの中で、熊本が標榜する『森の都』を地区総体として感じさせる演出(場に応じたメリハリなど)により、人々に癒し(心地よさ)を提供する空間づくり
 地区の個性や魅力(自然・歴史・文化・都市活動)、さらには広域玄関口として熊本を象徴する個性や魅力を活かし、誰もが『心の安らぎ』を感じ、ここでの様々なふれあいが『感性に響き』、また、より多くの人々を惹きつける『洒落たデザイン』(シンボリックな景観)の空間づくり

* “森”とは、単に豊かな緑を表すものではなく...
 ・多様な生物が育み、活動する場=多様な人々による様々な都市活動が行われる場
 ・静けさだけでなく葉音や声が聞こえる場=心地良い賑わいが感じられる場
 ・物質循環の場=都市の持続的な成長が感じられる場
 といった多様な意味を持つものである。

デザイン構成要素(例)

熊本が標榜する『森の都』(緑)
 熊本が誇る豊かな『水』
 地区の『歴史』
 熊本の『生活文化』
 新たに創出する『交流』

など

『森の都の癒しの空間』

「パーク・ステーション」とは...

緑や水、開けた空や清々しい空気が心地よく感じられる、公園の中にあるような潤いに満ちた都市空間。
その空間は、様々な人々の多様なニーズを満たし、その活動を許容する空間であり、心地よい潤いの中で、交流、憩い、語らいなど多彩な都市活動が行われる熊本の新たな玄関口・拠点である。

潤いに満ちた都市空間の素材を熊本らしい風景の記憶に求める
= 森の都

熊本らしい風景の記憶

明治29年4月、第五高等中学校の教授として赴任した夏目漱石が、人力車で池田駅(現上熊本駅)から五校に行く途中、京町あたりで町並みを眺望し、「森の都だな」と言ったことから、熊本を『森の都』と称するようになったと言われる。

現在の熊本城周辺の緑



夏目漱石が「森の都だな」と言われた場所の現在風景



「森」とは...

生命が誕生する場、育まれる場であり、様々な生き物の多様な活動が許容される場である。
そこには、緑、水、土、空気、光、あらゆる環境要素の循環の中で多彩な生命活動が生まれ、様々な静寂と喧騒を違和感無く内包する空間である。

この「森」を都市空間に置き換えると...

「森 = 多彩な活動を許容する空間」 『森の都』 街全体が様々な静寂と喧騒を違和感無く内包する空間

『森の都のいやしの空間』とは...

「森の都」は、人々の多彩な都市活動における静寂と喧騒とを心地よく内包する空間とし、その土台には、それらすべてをやさしく包み込む「緑、水、土、空気、光」が心地よく感じられ、時と共に成長する都市空間を『森の都のいやしの空間』と言う。

そこでは、「静寂 = 静 : 癒し」と「喧騒 = 動 : 賑わい」との都市空間を、違和感無く渾然一体とし、あるいは心地よく対比させ、それらをつなぐことで、街全体としてメリハリと空間の奥行きを形成する。

『熊本らしさ』をベースとした『森の都』

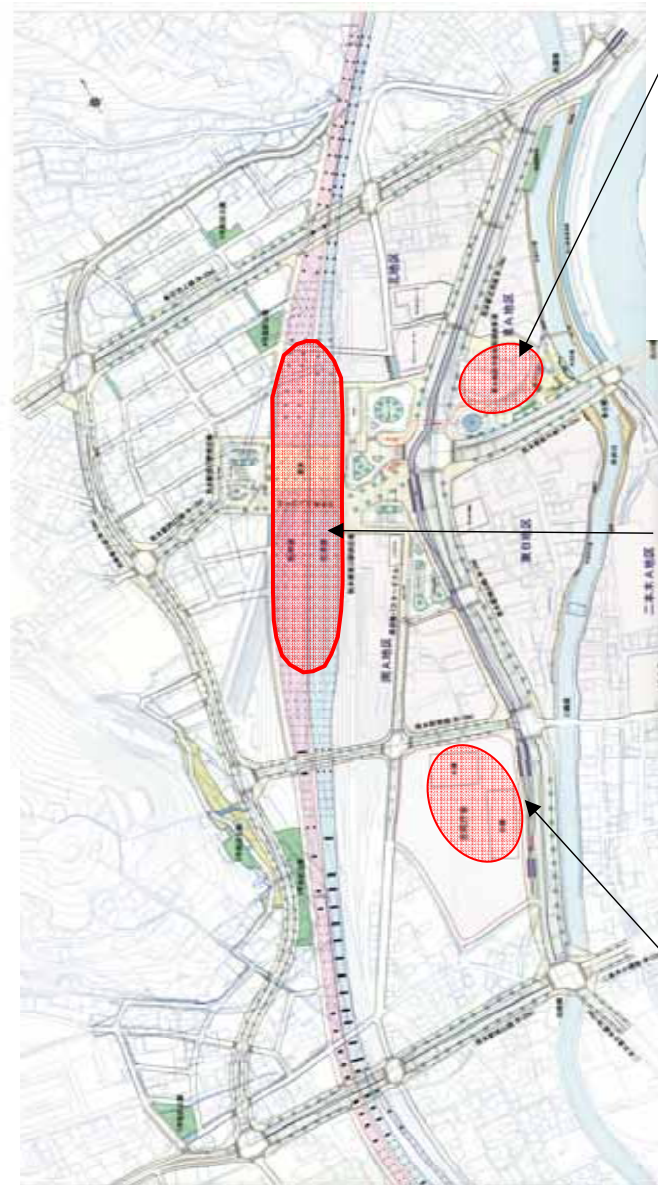
街には、長い間に培われたその街固有の特性(「熊本らしさ」: 風土・風習・気候・風景・歴史文化・他)を備えている。

その特性の中から適切な要素を新たなまちづくりの土台に活用し、都市づくりの文脈を受け継ぎながら、相違性・独自性・斬新性・未来性を備えた「新たな熊本らしさ」を創造する。

今後、具体的な空間デザインを展開していくにあたって、以下に示す6つの空間分類を考慮しながら検討を進めます。

1. 街のシンボル～ランドマーク

新たに整備、建築される大規模な建築物であり、新たに形成される副都心、熊本の玄関口として、新鮮さ、独自性、未来性などを兼ね備えた地域のシンボル施設
 ・熊本駅駅舎 ・東A再開発建築物 ・合同庁舎



・東口駅前広場から視認性の高い東A地区再開発建築物 建物形状は未定



新水俣駅

新八代駅

・熊本の陸の玄関口として、風格、独自性、親しみやすさや安らぎを感じるデザインを実現



・2棟からなる地上10～15階の建築物
 ・足元空間にゆとりを持たせ、城山線や南線の街並みに広がりを与えるデザイン

2. 街のシンボル軸～アメニティ軸

西口の万日山を背景とする緑を中心とした空間から、東口駅前広場等の交流空間、そして坪井川・白川の水辺空間へ、静寂と喧騒が心地良く渾然一体となった「森と水の回廊」として、地域の中心をなす賑わい・環境軸

- ・東西駅前広場 ・ペDESTリアンデッキ ・交流広場 ・東A再開発公開空地
- ・坪井川水辺広場

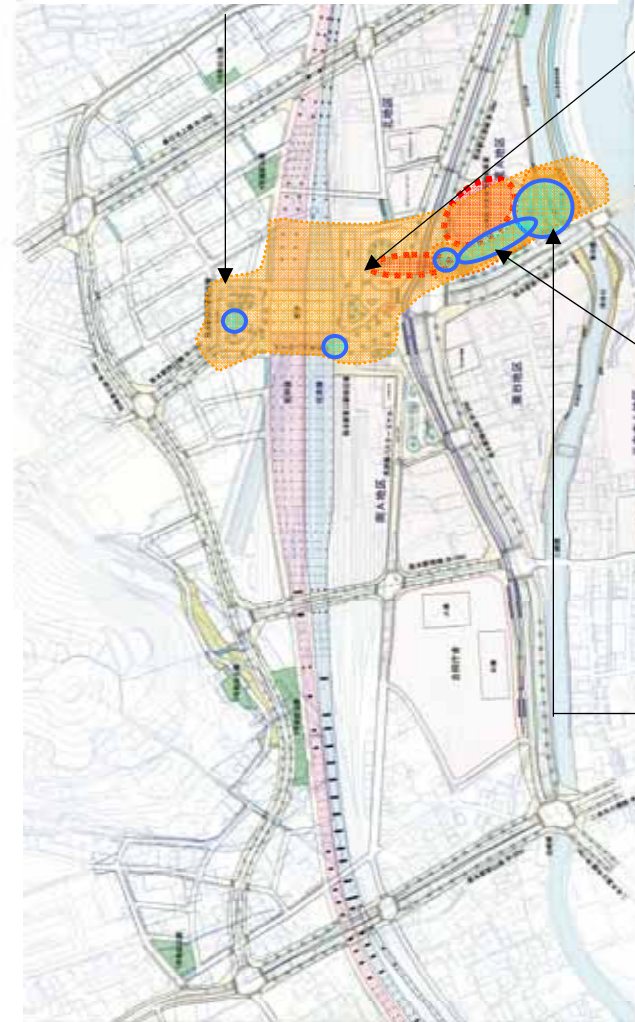


・身近な広場空間として、憩いの緑、暖かみのある空間づくり。



・多くの人が利用する駅前広場として、判りやすさと、賑わいの中にも心地よさを感じるデザイン

・プラットフォームや東口駅前広場から坪井川、白川方面は、空に開けた街並み



・賑わい空間として求心性を持つ交流広場、そこから坪井川へつながる東A公開空地



・石塘を眺め水面に触れ合う多目的な水辺の広場

3. 街の景観軸～風格のある緑の骨格

美しい街並み景観を見せる、街の骨格となる景観軸として、街路樹を中心に緑の帯を形成

- ・熊本駅北部線
- ・熊本駅城山線（南北方向）
- ・熊本駅新外線
- ・熊本駅西口線

・万日山の眺望を妨げない並木
・四季折々の変化と豊かな自然を楽しめる空間

・東口のシンボルロードとして、水辺空間へ導く開放的な街並みを形成（ビスタの形成）

・多様な街路樹、植栽帯、民有空間が一体となって豊かな緑が表象される空間づくり

4. 心地良い水辺の空間～どこか懐かしい 心地良い潤い空間(水系軸)

街の記憶（石塘や石塘堰）を眺め、ゆったりと歩きながら散策し、水と親しむ水辺の散策路として、憩いの空間を形成

- ・水辺の小径
- ・背割り堤上部歩行者専用道路

・堤防上部の歩行者専用道は、柔らかな印象を与えるみちづくり

・沿川建築物の更新とあわせて坪井川側に入り口を設置するよう誘導し、落ち着いた中にも賑わい感を醸成

・足元に心地良い路面、さわやかな緑と調和するベンチなど施設を配置

5. 街の要～ゲート空間や目印となる拠点空間をつくる

地区への主要な玄関口として、判りやすい景観形成

- ・北の回遊拠点〔北のゲート〕（祇園橋緑地他） ・南の回遊拠点
- ・田崎橋交差点〔南のゲート〕 ・西口線と春日田崎線交差点〔西のゲート〕
- ・合同庁舎外構（広場と公開空地）



- ・駅周辺地域と都心部の歴史・文化を融合させる空間づくり
- ・ゲート空間として広幅員道路の3方向から視認性を持たせる

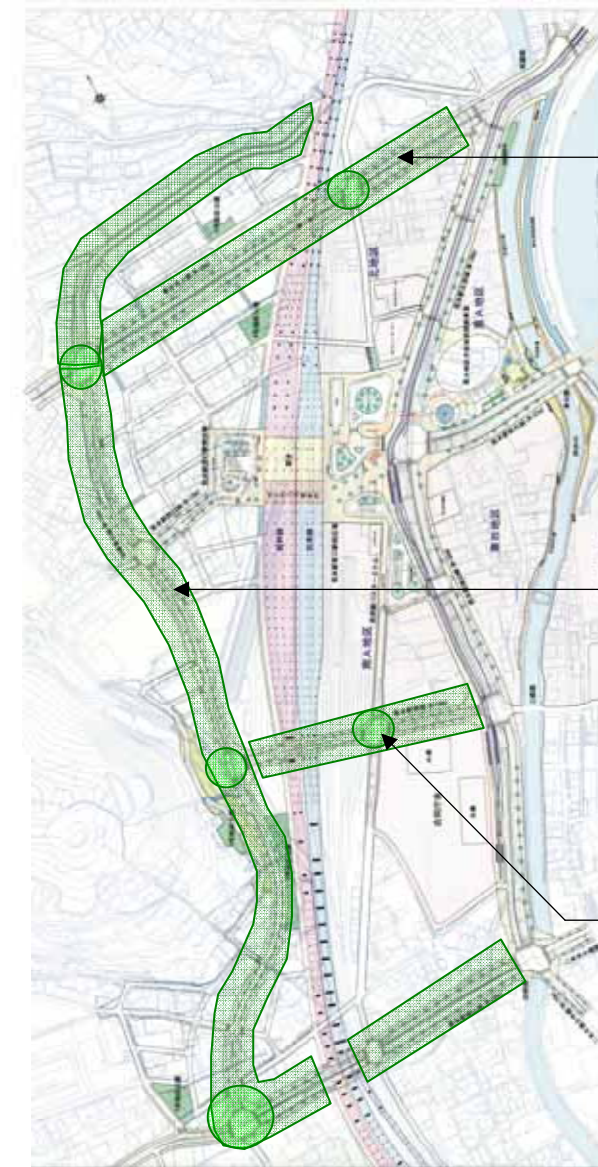


- ・坪井川と熊本駅城山線が接する場として、合同庁舎の都市的な空間と坪井川の自然・歴史的空間を対比

6. 生活に密着した緑の空間～外郭を見せる緑の帯、街角の憩いの空間をつくる

アメニティ軸、景観軸以外の道路空間は、地域の外郭を構成する緑の帯として、主要な道路の交差点部は歩行者に心地良い木陰を提供するなど街角広場としての空間を形成

- ・田崎春日線 ・春日池上線 ・熊本駅城山線（東西方向） ・熊本駅南線など



- ・地区南北の外郭を構成する緑の空間として、直線的な道路を見せる街路樹や植栽帯



- ・西側の緑の斜面、万日山との一体感を確保し、逆盃型の高木並木で、緩やかな道路線形を見せる。



- ・居住者の井戸端会議の場、歩行者の休息の場、目印にもなる緑陰樹の配置

3. デザイン要素の配置方針

(1) 『森 = 緑』の配置方針

『いやし(静) とにぎわい(動)の空間の共存を見せる緑の表現

- ・ 駅周辺では、都市機能の集積と共に、交流の場と心地よい場との共存を構成する、県都のシンボリックな空間をつくる。
- ・ その一つの要素として、「森 = 緑」の豊かな自然を適所に配置し、メリハリのあふ静と動の空間を構成する。

地区全体で様々な緑を見せることによる『森の都』の表現

- ・ 夏目漱石が感じた「市街地の豊かな緑 = 森の都」を、そのまま再現するのではなく、豊かな緑を随所に配置することにより「森の都：熊本」を誰もが感じ、また来街者にアピールする。

場に応じた多様な機能の緑を表現

- ・ “交流舞台”を目指す本地区では、集う人々が心地よく思える空間づくりが重要であり、目に見える緑の多さ(ボリューム)だけでなく、木陰を提供する緑、葉音が感じられる緑、四季を感じられる緑など、緑が醸し出す多様な機能を提供する。

豊かな緑を連想させる素材・形状による表現

- ・ 熊本の代表的な景勝地である阿蘇の雄大さや起伏、森を連想させる木材を、植栽帯や施設などで表現し、豊かな緑を連想させる。

誘目性を見せるシンボル樹



宮崎駅前広場

地域住民が日常的に気軽に利用するタマリの拠り所ともなる、シンボリックな高木

街角広場 街角の木陰



街具施設と共に高中低の様々な樹形の緑による、豊かな緑の表象と変化に富んだデザイン

街角の木陰

歩行者への木陰提供とアイストップの形成

路傍の草花の堤防上遊歩道



路傍の草花、どこか懐かしい道。直線ではない、けものみちのような柔らかな印象をもつ遊歩道。

万日山を突き当てにピスタを形成



静岡県掛川駅前通り

地味な緑のデザイン。

ピスタを形成する高木



駅前広場からの眺めに、尖塔形の街路樹により阿蘇外輪山、白川橋を突き当て景観としたピスタを形成

方向性を見せる高木の列植



飯田橋アイガーデン

整然とした都市的広場。アメニティ軸を誘導する方向性がはっきりとした、誘目性の高い高木列植による緑のデザイン。

爽やかな木陰、軽やかな並木



六本木ヒルズ周辺

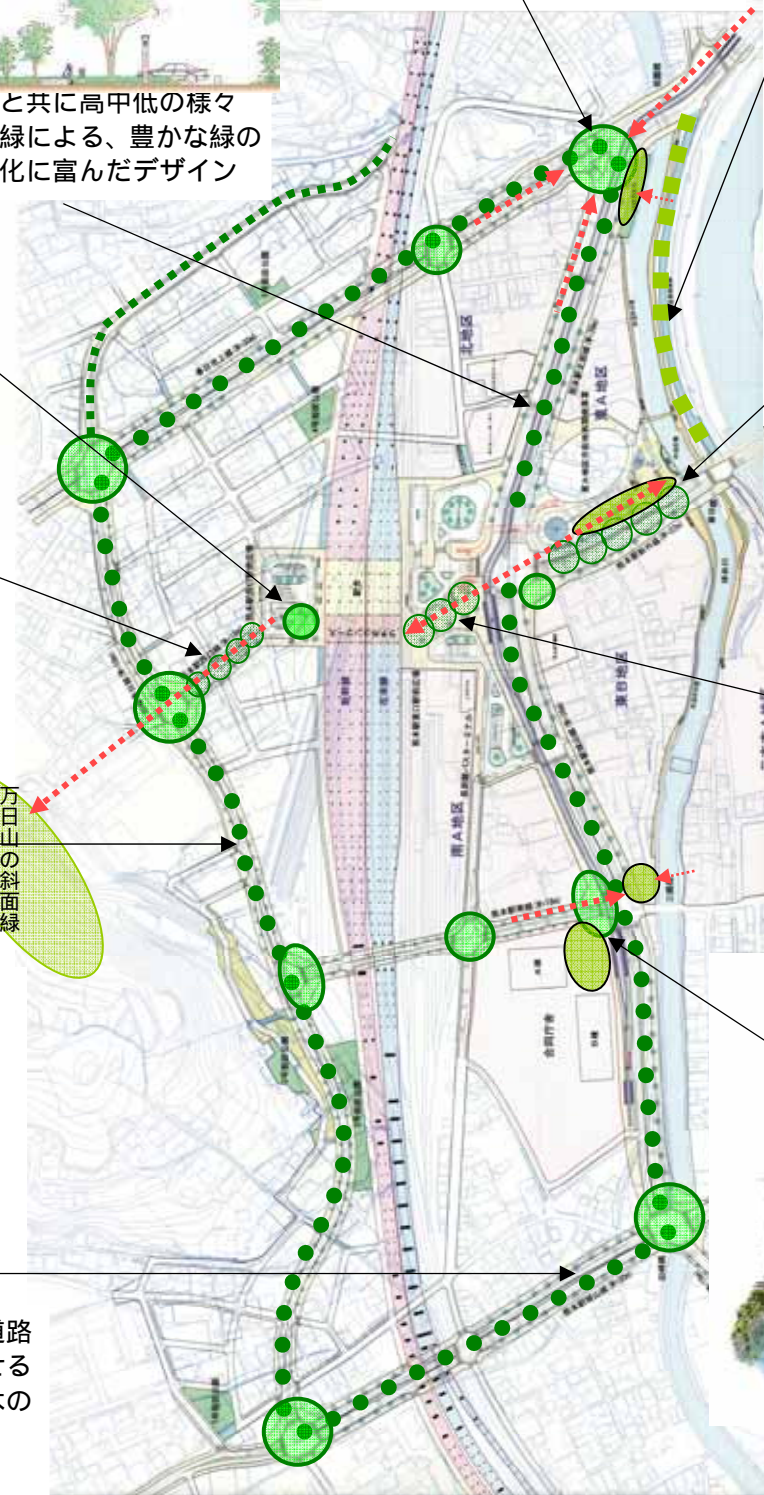
逆盃型の高木並木で、ピスタを見せる。緑の斜面としての万日山。

道路の軸性を見せる緑



愛媛県今治市

まっすぐな道路の軸性を見せる植栽帯と並木のデザイン



合同庁舎脇の公開空地、整然とした都市広场景観と対比する、せせらぎに見られる盆景の緑のデザイン。合同庁舎前広場、整然とならぶ高木列植、軸線がハッキリとした整形の都市広場にふさわしい緑のデザイン。